

多様な動きを経験させるため、実践しやすく、幼児の興味が持続する遊びの工夫を行った実践例

学校名 滑川市内保育所(園)、幼稚園 10施設(富山県)

全校幼児数 361名(男児194名 女児167名)
(問合せ先) 滑川市教育委員会 生涯学習・スポーツ課
電話番号 076(475)2111(内線255、256)
メールアドレス y_hamazumi@city.namerikawa.lg.jp

1 研究のねらい

子供に運動遊びの楽しさを伝え、運動遊び習慣化のきっかけづくりをするとともに、多様な動きを経験させ、運動能力の向上や、両足跳びや投球動作など正しいからだの使い方を身に付けさせる。

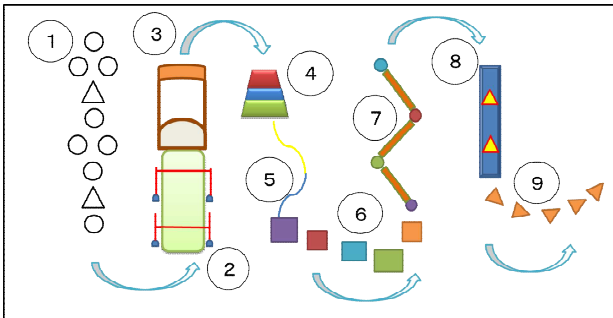
2 研究の概要

各所園では、施設の広さや、所有している用具・遊具が異なることから、運動動作が偏ったものになってしまう。代替可能な用具・遊具や身近にあるものを用い、多様な動きを経験させ、正しいからだの使い方の獲得状況を、運動能力テストなどにより検証する。

○実践プログラムの紹介

□ 多様な動きを経験できる遊びの工夫例

・サーキット形式で多様な動きを経験させた。



①両足連続跳び(跳躍力、調整力)

・コーンの縦置き・横置きや、輪の距離を変化させることで、負荷を調整。

②バー跳び越しからのからだ反転

③仰向けでトンネルを進む

(股関節周辺筋群の強化)

④跳び箱の上を両手でからだを押し進める

(腕支持、跳び箱運動につながる動き)

⑤ロープ渡り(平衡感覚)

・ワニがいるというイメージを持たせたり、追いかけて急がせたりと難易度設定を上げる

⑥ブロックを渡る(跳躍力、平衡感覚)

⑦腕でからだを支持し横移動(体幹強化)

・腕や足が曲がらないように、1本の棒になるなどのイメージを持たせる。

⑧平均台(平衡感覚)

・途中に障害物を置き、跨がせたり、ジャンプさせたりして難易度を上げる

⑨三角コーンをツースキップで跳び越す

・手を叩いてリズムをとるなどして、駆け抜けるイメージで行う。

⑩新聞紙を用いた運動あそび、投動作の練習

・新聞を使いスケートの動きや、カエルの動き、投動作につながる動きを経験させた

○幼児の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

1 指導者と実施所園職員が、事前に用具・遊具の安全点検を行い、職員を要所に補助員として配置させた。

2 難易度を年中・年長で変えるなど、年齢や発達段階に応じた運動遊び教室を行った。

○成果の意義と今後の課題

1 多様な運動を経験することで、複合した動作が身に付きやすくなることや、正確なからだの使い方を身に付けることで、今後の運動能力の向上が期待できる。

2 所園にあるものを活用し、最小限の用具・遊具で普段からできるものにする。

○ 研究内容

【調整力、敏捷性の工夫】

ワニ役などで運動にイメージ付けを行い刺激を加える



【多様な動きを引き出す】

コーンの縦置き・横置きなどにより異なった動作を引き出す



【各所園所有の用具・遊具の活用】

通常の園の活動でも多様な動きを経験させられる



【身近にあるものの活用】

新聞紙を用いて、股関節の運動や投動動作の練習



【運動能力テスト結果表】

本事業に協力いただいた所園の運動能力テストの平均値と2002年の全国平均値との比較

			体支持持続時間	両足連続跳び	ボールキャッチ	ボール投げ
男子	年中	(前期)	18.5	5.83	5.2	4.9
		全国	32.0	6.24	5.3	6.1
	(後期)	41.5	5.62	6.4	6.5	
		全国	45.8	5.68	6.4	7.0
	年長	(前期)	36.9	5.06	6.7	6.7
		全国	54.4	5.34	7.6	8.2
(後期)	62.1	4.78	8.4	8.1		
	全国	63.6	5.16	8.1	9.2	
女子	年中	(前期)	19.3	6.58	4.5	3.6
		全国	31.4	6.35	4.8	4.1
	(後期)	48.6	5.85	6.1	4.4	
		全国	44.7	5.74	6.0	4.6
	年長	(前期)	48.1	5.18	6.9	5.2
		全国	55.1	5.44	7.1	5.5
(後期)	75.5	4.87	8.4	6.2		
	全国	59.0	5.33	7.5	5.6	

全国平均値に比べ数値が下回っている項目もあるが、前期と後期の数値の成長幅は全国より大きいものが多く、成果があらわれていると考えられる。

前期：6月、後期：2月

全国平均より上

全国平均より下

参考文献：幼児の運動能力発達の年次推移と運動能力発達に關与する環境要因の構造的分析

【実践プログラム後の取り組み】

実践プログラムに取り組んだ後の各所園での取り組みについてのまとめ

実践プログラム後、運動項目で分けて取り組んだり、用具・遊具を購入したりするなど各所園で工夫しており、差異はあるが継続して取り組んでいる。また、チューブで綱渡りなど、用具・遊具のいろいろな使い方や、ワニ役などのイメージ付けで刺激を加えることなど、実践プログラム以外の運動遊びにおいても工夫や応用し活用していこうという考えも聞かれた。